

I. 以下の文章の下線部（1）～（7）に入る最も適切な神経核と（8）に入る神経伝達物質を答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。（各1点）

大脳基底核は、大脳深部に位置する神経核群である。大脳皮質からの入力を受ける入力部（線条体）を形成するのは、被殻と（ 1 ）であり、処理した情報を視床や脳幹に出力する出力部を形成するのは（ 2 ）と（ 3 ）である。入力部から出力部への経路には、直接経路と間接経路の2つが存在する。このうち、直接経路は入力部のニューロンが出力部に直接投射する。他方、間接経路では、入力部と出力部の間に（ 4 ）と（ 5 ）が介在する。この他に、ハイパー直接経路（超直接経路）と呼ばれる経路があり、（ 6 ）が大脳皮質から直接入力を受ける。大脳基底核疾患の一つであるパーキンソン病では、（ 7 ）に存在する（ 8 ）作動性ニューロンの変性・脱落が生じる。

（解答欄）

(1)	(2)	(3)	(4)
(5)	(6)	(7)	(8)

II. 下図のように、大脳基底核疾患の症状を運動（横軸）と筋緊張（縦軸）の亢進・低下で分類した場合、パーキンソン病とハンチントン病はどの場所に位置づけられるか。最も適切なものを①～⑧のうち一つ選び、解答欄に記入しなさい。（各1点）

・パーキンソン病

（解答欄）

・ハンチントン病

（解答欄）

